

教科用図書の調査研究報告書（総括）

種目名	国 語
-----	-----

発行者	総合的な所見
東 書	<p>(ア) 第1の観点基礎・基本の定着</p> <p>①単元の扉に、単元の目標を単元名として示している。</p> <p>②脚注に行数、音訓 を示している。</p> <p>③各学年とも、本編に、読書単元「読書への招待」を3つ設定し、3作品を掲載している。各学年とも、同単元内に読書案内「本で世界を広げよう」「名作を読もう」と言語活動の教材を掲載している。</p> <p>(イ) 第2の観点 主体的に学習に取り組む工夫</p> <p>①第2学年で「七十五歳以上の高齢者の運転免許証返納」「救急車を有料化するべきである。」など、話し合う活動において社会問題に関するテーマを設定している。</p> <p>②学習の流れが最初に示してあり、題材例が巻末に提示されている。学習に沿って、具体的な例やポイントが書かれている。</p> <p>(ウ) 第3の観点 内容の構成・配列・分量</p> <p>①「本編」と「基礎編」「資料編」の3部からなる。各単元は、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」と「知識及び技能」の内『言葉の特徴や使い方に関する事項』『情報の扱い方に関する事項』『我が国の言語文化に関する事項』の各領域を関連させたもので構成している。</p> <p>②古典教材は第5単元に配列している。古文と現代語訳は、おおむね上下に分けて書いてある。</p> <p>(エ) 第4の観点 内容の表現・表記</p> <p>①第1学年説明的な文章の3つの単元に使われている図表等の総計数は、7である。</p> <p>②「基礎編」「資料編」として全学年に示している。</p> <p>(オ) 第5の観点 言語活動の充実</p> <p>①全学年巻末の「基礎編」に「対話的な言葉の力—伝え合う力」として、伝え合う力を培うための学習活動の手順を系統的に紹介している。</p>

三省堂	<p>(ア) 第1の観点基礎・基本の定着</p> <p>①単元の扉に、単元の目標を単元名として示している。 ②脚注に行数、本文中の読みを示している。 ③各学年とも、本編に「私の読書体験」を掲載し、文章中の図書及び筆者の著作した図書を紹介している。また、「読書活動」に係る言語活動を1つ掲載している。</p> <p>(イ) 第2の観点 主体的に学習に取り組む工夫</p> <p>①第2学年で「互いに支え合う共生社会をつくるために」「地域の魅力に迫るには、どんなテーマや視点があるか」など、話し合う活動において地域の特色に関するテーマを設定している。 ②学習の流れが最初に示してある。学習の流れに沿って、イラストや図を使ってポイントを示している。評価の観点が具体的に示してある。</p> <p>(ウ) 第3の観点 内容の構成・配列・分量</p> <p>①「本編」と「資料編」の2部からなる。各単元は、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」と「知識及び技能」の内『言葉の特徴や使い方に関する事項』『情報の扱い方に関する事項』『我が国の言語文化に関する事項』の各領域を関連させたもので構成している。 ②古典教材は第5単元に配列している。古文と現代語訳は、おおむね上下に分けて書いてある。</p> <p>(エ) 第4の観点 内容の表現・表記</p> <p>①第1学年説明的な文章の3つの単元に使われている図表等の総計数は、8である。 ②「文法のまとめ」「読書の広場」「資料編」が全学年に示している。</p> <p>(オ) 第5の観点 言語活動の充実</p> <p>①各学年の第1単元に「グループディスカッション」を設け、系統的な内容にしている。</p>
-----	---

教 出	<p>(ア) 第1の観点 基礎・基本の定着</p> <p>①単元の扉に、課題を考えるためのキーワードと単元名を示している。</p> <p>②新出漢字には、本文中にルビが振ってある。</p> <p>③各学年とも、本編に、読書単元「読書への招待」として、2作品を掲載している。また、2作品のうち最初の作品の終わりにある「みちしるべ」では、読書に係る言語活動について掲載し、後の作品では作者の紹介を掲載している。</p> <p>(イ) 第2の観点 主体的に学習に取り組む工夫</p> <p>①第2学年で「災害への対処法」「不平等のない社会を考える」など、話し合う活動において持続可能な社会実現に向けたテーマを設定している。</p> <p>②最初に「学習活動の流れ」が示され、「学びナビ」という形で学習活動をしていくうえでのポイントが挙げられている。</p> <p>(ウ) 第3の観点 内容の構成・配列・分量</p> <p>①本編と巻末付録（言葉の自習室）の2部からなる。各単元は、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」と「知識及び技能」の内『言葉の特徴や使い方に関する事項』『情報の扱い方に関する事項』『我が国の言語文化に関する事項』の各領域を関連させたもので構成している。</p> <p>②古典教材は第5単元に配列し、単元末に「読むこと」を含んでいる。古文と現代語訳は、おおむね上下に分けて書いてある。</p> <p>(エ) 第4の観点 内容の表現・表記</p> <p>①第1学年説明的な文章の3つの単元に使われている図表等の総計数は、21である。</p> <p>②「言葉と文法（解説編）」「漢字」「言葉の自習室」として全学年に示している。</p> <p>(オ) 第5の観点 言語活動の充実</p> <p>①全学年巻末に活動ごとに「表現に役立つ言葉」の一覧を掲載している。</p>
-----	---

(ア) 第1の観点 基礎・基本の定着

- ①単元の扉に、単元名と単元の目標を示している。
- ②脚注に行数、音訓、本文中での読みを示している。
- ③各学年とも、本編に、読書単元を2つ設定している。「読書生活を豊かに」は、「読書活動」「読書」「読書案内」「読書コラム」で構成されている。「読書に親しむ」は、「読書」「読書案内」で構成されている。いずれも「読書」掲載作品について、「続きはこちら」で書籍紹介をしている。

(イ) 第2の観点 主体的に学習に取り組む工夫

- ①第2学年において「ALT のマシュー先生に、町の散策コースを提案」「全ての中学生は、ボランティアをすべきである。」など、話し合う活動において地域や自分たちに目を向けたテーマを設定している。
- ②最初に「生かす」として、既習内容と関連が示しており、最後に「つなぐ」として日常生活、学校生活、将来の三つの場面での活用例が示している。

(ウ) 第3の観点 内容の構成・配列・分量

- ①本編と巻末資料（学習を広げる）の2部からなる。各単元は、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」と「知識及び技能」の内『言葉の特徴やきまりに関する事項』『情報の扱い方に関する事項』『我が国の言語文化に関する事項』の各領域を関連させたもので構成している。
- ②古典教材は第6単元に配列している。第2学年では第1単元に『枕草子』、第3学年では第1単元に『学びて時に之を習ふ―「論語」から』が配列されている。

(エ) 第4の観点 内容の表現・表記

- ①第1学年説明的な文章の3つの単元に使われている図表等の総計数は、22である。
- ②「文法・漢字・振り返り」「学習を広げる」として全学年に示している。

(オ) 第5の観点 言語活動の充実

- ①全学年巻末に『「学習の窓」一覧 豊かに表現するために』があり、話し合いでのポイントが整理されている。